

不二サッシ株式会社

グリーンローン・フレームワーク

2025年10月



『窓から夢をひろげていきます』

目次

1. はじめに
 - 1.1 不二サッシグループの概要
 - 1.2 経営理念と行動指針
 - 1.3 サステナビリティ経営
 - 1.4 サステナビリティ推進体制
 - 1.5 フレームワーク策定の目的
2. グリーンローン・フレームワーク
 - 2.1 調達資金の使途
 - 2.2 プロジェクトの選定基準とプロセス
 - 2.3 調達資金の管理
 - 2.4 レポートィング

1. はじめに

1.1 不二サッシグループの概要

不二サッシグループ¹は、1930年の創業以来、サッシ製造技術を通じて、ビルや住宅における快適な居住環境を追求してきました。特にアルミサッシ分野においては、1958年に国内で初めて製造販売を開始し、一貫生産によるサッシ、カーテンウォールを通じて国内外の数々の都市景観の創造に寄与してきました。

現在、2030年の創業100周年そしてその先の未来に向けて力強く歩みを進めており、『サステナブルな社会実現「選ばれる企業グループへ」』のスローガンを掲げ、サステナブルな社会の実現のため、アルミリサイクル材の活用や環境配慮型商品の拡充による脱炭素経営の実践と事業領域・エリアの拡大による収益確保（稼ぐ力の向上）の両立によって持続的成長を目指しております。

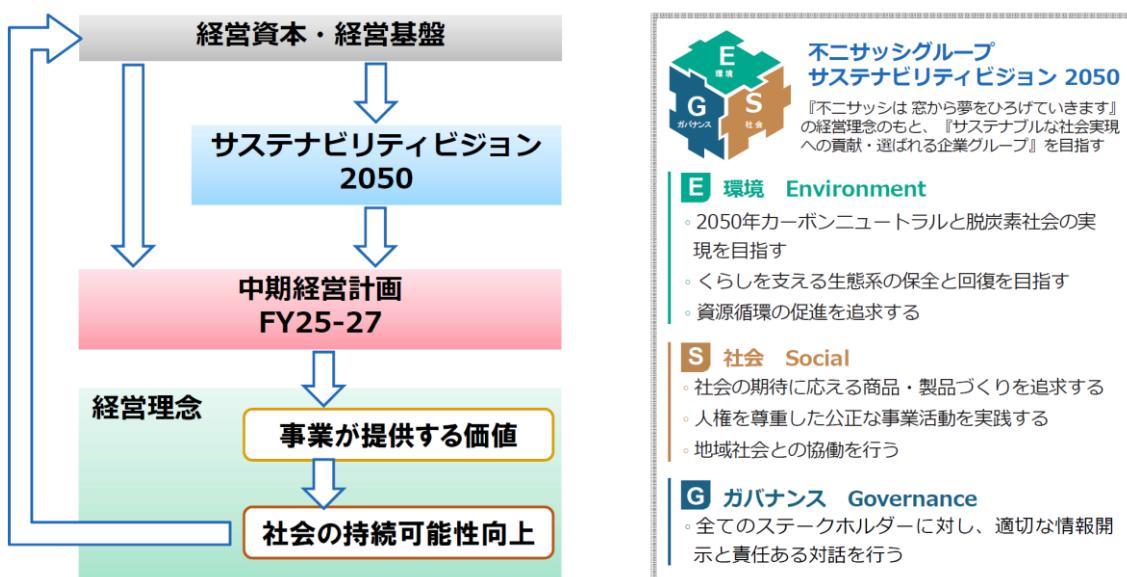
1.2 経営理念と行動指針

『不二サッシは窓から夢をひろげていきます』の経営理念を原動力に、「私たちはお客様との絆を大切にします」「私たちは心を込めた商品を世に出します」「私たちは活力あふれる気風づくりに努めます」の3つの行動規範を内外に約束しております。

1.3 サステナビリティ経営

サステナブルな社会の実現に貢献し、「選ばれる企業グループ」であり続けるために、サステナビリティ経営を通じて環境・社会課題の解決に取り組んでおります。持続的に成長する未来像に向けて当社グループ社員が進むべき道筋を描いた「サステナビリティビジョン2050」を2024年3月に策定・発表し、同6月には温室効果ガス（GHG）排出量の削減についてSBT（Science Based Targets）の短期目標およびネットゼロ目標の認定を取得しました。同じく2024年には、経済産業省が主導するGXリーグにも参画しております。

【図：サステナビリティ経営の概要（左）、サステナビリティビジョン2050（右）】

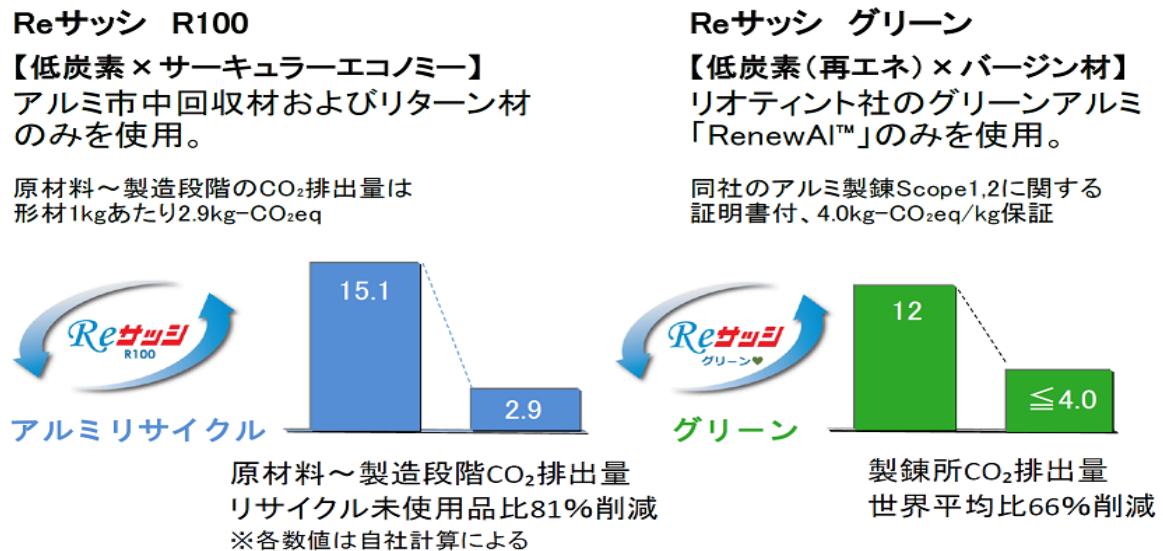


さらに、世界的に脱炭素に向けた取組が加速する今日、建築業界では低炭素建材の需要が急速に高ま

¹ サッシの加工を行う不二サッシ株、アルミ素材を扱う不二ライトメタルを中心に関係会社29社を不二サッシグループとする。

る中、国内製造販売するサッシとして、アルミリサイクル率を100%に高めた「ReサッシR100」と、リオティント社グリーンアルミ「RenewAl™」のみで製造する「Reサッシグリーン」の販売を2025年秋より、予定しております。(注1)

【図：(注1)】



1.4 サステナビリティ推進体制

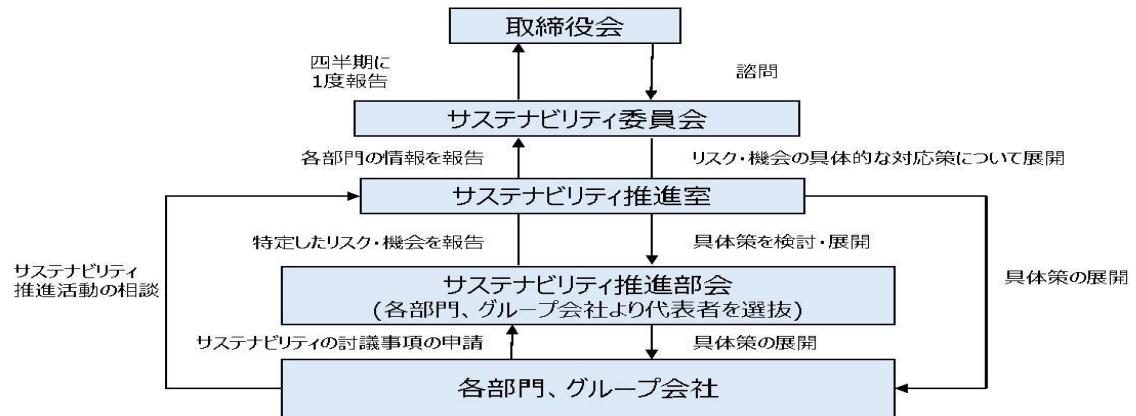
不二サッシグループは、不二サッシ株式会社の取締役会（事業持株会社）の監督のもと、サステナビリティ委員会を中心としたサステナビリティ推進体制を構築しています。その事務局はサステナビリティ経営を効率的に進めるための専門組織であるサステナビリティ推進室が担っています（ともに2023年度立ち上げ）。

サステナビリティ委員会は四半期に一度開催され、代表取締役社長が委員長を務め、代表取締役専務・経営会議メンバー、および不二ライトメタル社長で構成されており、具体的役割として、サステナビリティの基本方針の策定およびサステナビリティ推進活動における計画、短期・中期・長期の目標策定、取り組みの推進・モニタリングを実施しています。これには気候変動および自然資本課題も含まれており、サプライチェーンにおける依存、影響、リスク、機会の管理・監督に関しても、本委員会によるモニタリングのもとサプライチェーン全体におけるリスクおよび機会への対応を行っています。

対応の一環として、サステナブルな社会実現に向けた「不二サッシグループ人権方針」を定め、販売先・調達先を中心としたビジネスパートナーとの関係において人権を尊重し、これに則ったエンゲージメントを行えるような体制づくりを進めています。

委員会で議論された内容は、サステナビリティ委員会委員長から取締役会へ四半期に一回の頻度で報告しています。取締役会は委員会で検討したサステナビリティや気候変動に関する課題について審議、必要に応じて委員会へ諮問を行い、これらの課題の決定と取組(KPIとしてのGHG排出量の削減など)をサステナビリティ委員会委員長の責任のもと、モニタリングします。

【図：サステナビリティ推進体制】



1.5 フレームワーク策定の目的

不二サッシグループは、今回、「Fプロジェクト新築工事（新本社社屋建設）」（以下、本プロジェクト）にて、新本社を建設することを決定し、本プロジェクトの建設資金を調達することを目的に「グリーンローン・フレームワーク」（以下、本フレームワーク）を策定することに致しました。

本プロジェクトは、全てのステークホルダーに対し、開かれ、つながることで「不二サッシグループの象徴」となることを目指します。不二サッシグループは、本フレームワークに基づくグリーンローンの実行を通じ、グループ一体となってお客様や地域・社会をはじめとする全てのステークホルダーに貢献して参ります。

2. グリーンローン・フレームワーク

本フレームワークは、以下の原則等に則って策定され、日本格付研究所（JCR）より、各原則等との適合性に関する外部評価（第三者評価・セカンドオピニオン）を取得しています。

- ・グリーンローン原則 2025（ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）、アジア太平洋ローン・マーケット・アソシエーション（APLMA）、ローン・シンジケーション・アンド・トレーディング・アソシエーション（LSTA））
- ・グリーンローンガイドライン 2024 年版（環境省）

2.1 調達資金の使途

グリーンローンで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たす「F プロジェクト新築工事（新本社社屋建設）」の取得資金、もしくは同資金のリファイナンスに充当する予定である。

【適格クライテリア】

- ・グリーンビルディング

【概要】（2025 年 10 月現在）

所在地： 神奈川県川崎市高津区坂戸 1-13-1

建物用途： 事務所

建物構造： S 造 地上 5 階

建設期間： 2025 年 7 月着工、2026 年 7 月竣工（予定）

下記の第三者認証機関の認証のいずれかを取得済もしくは今後取得予定の物件

① BELS 評価（2024 年度基準）

非住宅： レベル 4 以上

② CASBEE 認証における B+ ランク以上

自治体版 CASBEE は、工事完了日から 3 年以内のものに限る。

サステナビリティ経営の一環として、「F プロジェクト新築工事（新本社社屋建設）」は屋上に太陽光発電パネルを設置し、また壁面のカーテンウォールには「Re サッシ R100」（注 1 参照）を採用するなど、当社グループが進める脱炭素の取り組みを具現化したショールーム併設型オフィスビルとなります。複数拠点を集約することで、エネルギー消費の圧縮効果も見込まれます。また川崎市の防災協力事業所に登録し、災害発生時には地域の避難所としてご利用いただくほか、太陽光発電の電力を地域に分配するなど、地域社会の持続性向上に大きく貢献する投資であります。

尚、調達方法は借入金、投資先は「F プロジェクト新築工事（新本社社屋建設）」取得資金、同資金のリファイナンスに充当予定であります。

2.2 プロジェクトの選定基準とプロセス

調達資金の使途となるプロジェクトは、経営管理部担当執行役員により適格クライテリアへの適合が検討され、評価および選定が行われ、サステナビリティ委員会及び経営会議にて審議し、評価及び選定します。

また、対象となるプロジェクトを資金使途としてグリーンファイナンスによる資金調達を行うことは、経営管理部担当執行役員によって起案され、サステナビリティ委員会及び経営会議審議を経て、最終的に

取締役会で承認されます。

尚、不二サッシグループでは、選定プロジェクトが環境・社会に与えるネガティブな影響及びその緩和方法を以下の項目で確認しています。

- ・物件の瑕疵等については、取得時のデューデリジェンス及び物件実査の実施
- ・周辺住民とのトラブルについては、騒音、振動、電波、及び日照権等に関する住民向け説明会実施
- ・不二サッシグループのサステナビリティに関する方針に沿った資材調達、環境汚染防止、労働環境及び人権への配慮の実施

プロジェクトの選定基準および選定プロセスに関しては、当社ウェブサイト・プレスリリース・JCR評価レポート等により開示予定であります。

2.3 調達資金の管理

グリーンファイナンスに基づき調達した資金は1年以内に適格クライテリアを満たす物件の資金もしくは当該資金のリファイナンスに充当されます。本資金の管理は、経理部の監督の下、本プロジェクト専用口座に振替、分別管理を実施するとともにそのエビデンス添付の上、レポートを作成管理し、経営管理部（経理部を所管）担当執行役員は上記レポートを定期的に確認します。資金の充当状況を経営会議にて適宜報告するとともに、当社監査部および監査法人の監査を受け、最終的に完済時まで保管します。

また、未充当資金については、現金または現金同等物として、本プロジェクト専用口座にて管理します。全額充当後においても、評価対象のローンが償還するまでに資金使途の対象となる資産が売却または毀損などにより、資金使途の対象から外れる場合、一時的に発生する未充当資金は別途管理します。

2.4 レポート

グリーンファイナンスに基づき調達した資金は以下の内容について、貸出人に年次報告するとともに、当社ウェブサイト上にて、年次で開示します。

- ・グリーンファイナンスに基づく資金調達額
- ・本プロジェクトへの充当額
- ・未充当額の発生状況と対処状況

なお、グリーンファイナンスに基づき調達した資金は、本プロジェクトに関する工事契約に基づき計画的かつ速やかな充当を予定しており、最終的に全額充当する予定であります。その後の資金充当について大きな変更が生じた場合は貸出人に都度報告を行う予定であります。

インパクトレポートとして、グリーンビルディング認証の取得状況（取得または取得予定期・認証の種類・水準）、加えて、本プロジェクト実施前の電気消費量を基準にその削減量を年度ベースにて、当社ウェブサイト上にて、開示します。

以上